

指定管理施設(総合福祉センター)事業評価表
 太平老人福祉センター事業分

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい			年度評価		平成28年度の 実施状況	平成29年度の 実施状況	取組み、成果、利用者の満足度・評価、 課題分析、自己評価		
							H28 年度	H29 年度					
いきが いづく り、 教養講 座運 営事 業	1	教室	定員	回数	実施日	ねらい			実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		水彩画教室	13	24	第2・4月曜日	趣味や教養の向上を 目的とするとともに、 楽しく充実した生活が 送れるよう、仲間作り の場を提供する。			24	187	24	277	定員13名に対し、新規7名を含む14名が参加。講師の個別指導により、人気が高く利用者同士で出来栄を評価しつつ、交流ができた。作品展は新規受講者の開拓機会でもあり、教室のPRに努めた。 定員を超える場合は新規の利用者を優先することになっているため、今後、そうした時には継続希望者によるサークルを立ち上げるか、現在活動されているサークルに何人か移行してもらうか等検討していく必要がある。
		健康麻雀教室	40	72	毎週火曜日 第2・4金曜日				72	2,090	73	2,434	44人の定員を大きく上回る69名(内、新規26名)の応募有。初心麻雀教室から卒業して申し込まれた女性が多く、年度初めはベテランの方が新規の方に教えるよう対局を配慮をしたほか、できるだけ多くの方が平等に参加できるよう、2グループにわかれ、毎回対局相手を変え、多くの方と交流できるよう実施。 年間を通して問い合わせが一番多く、人気の教室であるが欠席が多かったり、午前で帰る方もあり、次年度には集金方法や午後からの参加も出来るよう実施方法を見直す。
		絵手紙教室	20	24	第2・4火曜日				24	229	23	258	新規6名を含む17名の応募有。持ち寄った季節の花を描いたり、講師からのアドバイスを受け出来上がった作品を参加者同士で評価し合い、交流が深められた。 新期申込み者には、技術の向上や、参加者間の交流ができるよう声掛けや、座席などにも配慮。昨年までは断っていた年度途中の受講希望者に対して、講師とも相談し定員に余裕があれば、参加できるよう改めた。
		習字教室	16	24	第1・3水曜日				24	316	24	384	新規2名を含む17名の応募有。講師の丁寧な個別指導もあり、年度途中での問い合わせも多い人気の教室。今後、定員を超える場合、新規の利用者を優先することになっているため、継続希望者には現在活動されているサークルに移ってもらうことも含め、理解を求めていく必要がある。
		ペン習字	16	24	第2・4水曜日				24	171	24	239	新規5名を含む15名の応募有。男性の受講者が少ない為、習字教室の男性受講者にも声をかけたり、作品展の際に教室のPRを行い、新規受講者の開拓を図っている。
		編物教室	16	24	第2・4水曜日				24	302	24	265	新規2名を含む15名の応募有。(途中、体調不良のため退会されるが方2名) 講師の個別指導を受けながら、参加者同士による出来栄の評価もあり、楽しく受講された。作品展では教室のPRを行い新規受講者の開拓に努めた。
		写真教室	30	12	第3水曜日				12	226	12	222	新規2名を含む22名の応募有。講師が高齢で健康に不安があるため、今後の教室の存続や講師の交代について、講師及び一部の受講者と、話し合う機会も設けたが、現在の講師に作品の評価や指導を受けたい方が多く参加している為、30年度も現状のまま継続することとした。

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい		年度評価		平成28年度の実施状況		平成29年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H28年度	H29年度					
		初めての麻雀教室	8	24	第2・4木曜日			24	590	24	383	新規14名を含む20名の応募で、定員の8名を大幅に上回る。男性2名、女性18名と圧倒的に女性が多く、稗の名前、点棒の数え方など丁寧な指導で、参加者も熱心である。年度途中からの受講希望者もあるが、定員越えのため断っている人気。 受講者募集の時点で継続を希望する方には、一定のレベルにある方には「健康麻雀教室」への移行を促すとともに、そのレベルまで達していない方については、30年度に「中級健康麻雀教室」を新規に立ち上げ、対応予定。
		青空小物作り教室	16	24	第1・3金曜日			24	339	24	232	13名の応募有。途中体調不良などで2名退会。教室の準備や細かいパーツの振り分けを参加者が積極的に手伝い、講師の指導と参加者同士で作り方を教え合い、参加者全員で運営されている。 長く続けられている参加者が多く、高齢の為に減少傾向にあるため、作品展でレイアウトや作品の見せ方を工夫して教室のPRに力を入れた。小物作りに興味のある方からの問い合わせがあるため、今後、単発事業としても実施し、新規受講者を増やせるよう検討。
		詩吟教室	30	24	第1・3金曜日			24	333	24	249	新規2名を含む16名の応募有、家族の事情等により4名が途中退会。老人センターまつりや他の発表会に向けて講師に指導を受け、熱心に取り組んでいる。 年々受講者が減少傾向にあるため、継続希望者によるサークルへの移行も視野に入れるとともに、広報紙に教室の様子を掲載する等、PRをして募集を呼び掛けた。
		民謡教室	16	24	第1・3金曜日			24	216	24	224	11名の応募者で開始したが、家の事情により1名が途中退会された。講師の三味線に合わせ、老人センターまつりや他の発表会に向け日々練習している。 年々参加者が減り、新規受講者がいないため、サークル化への移行も視野に入れながら、発表の際には教室のPRをして受講を呼び掛けた。
		唱歌教室	100	24	第2・4金曜日			24	1,772	23	1,610	新規2名を含む94名の応募有、最終100名で季節の歌や、昔学校で習った歌などを楽しんでいる。 老人センターの新規登録者には見学を奨め、教室参加に繋げている。老人センターまつりでは、男性の唱歌教室との“歌の交歓”をするなど、交流の機会を設けている。
		おじんの唱歌教室	30	24	第2・4金曜日			24	508	23	406	25名の受講者で、女性の教室と同じ講師の指導により実施。男性のみの教室で、気兼ねなく季節の歌や、外国の歌を歌い、楽しく参加されている。 老人センターの新規登録者には見学を勧め、教室参加に繋げている。教室のメンバーで市民文化祭にも出演する等、活動の場が広がっている。

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい		年度評価		平成28年度の実施状況		平成29年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H28年度	H29年度					
		パソコン教室 (初級コース)	10	48	毎週月曜日	いきがいづくりとして就業や生活に役立つ技術を身につけてゆく。		47	504	22	152	6ヶ月のコースを前・後期2回予定していたが、予定していた講師が3月末に急逝されたため、前期の教室開催を断せざるをえず、後期の開催に向けて講師探しに苦心した。 後期は8名の受講者のうち、初めて受講される方が4名あり、ゆったりとした雰囲気であったが熱心に受講された。最近では、市内3カ所あるいずれの老人センターでも初級のパソコン教室の応募者が減少傾向にあることから、30年度には初心者向けの教室は市内の中心である太平のみで開催し、他の2センターでは開催しないこととした。
		パソコン教室 (中級コース)	10	48	毎週木曜日			48	501	24	191	6ヶ月コースを前・後期2回で予定していたが、後期は応募者数が少数であったため開講を断念し、同じ内容を姫で開催しているため、そちらで受講してもらおうよう促した。 前期は新規7名を含む10名でエクセルの応用を学んだ。利用者のパソコン教室で学びたい内容が多様化している為、基礎を習得した後は、新たな場での活躍を促す必要がある。
		パソコン教室 (上級コース)	10	48	毎週金曜日			48	485	48	456	6ヶ月コースを2回実施した。前期は新規2名を含む12名、後期は新規1名を含む11名の応募があり、それぞれ10名の定員を超えて実施した。概ね同じ参加者が継続して受講しているため、内容が徐々にレベルが上がっており、老人センターの範疇を超えることから、平成30年度からはサークルに移行していただく。
		小計		492				491	8,769	440	7,982	
		サークル	定員	回数	実施日	ねらい		実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		はつらつ体操		48	毎週月曜日	個々の趣味や教養の向上を目的とするとともに、サークル活動が、楽しく充実した生活が送れるようサポートする。		28	120			参加者が高齢のため、28年度をもってサークルを解散された。運動する機会がなくなること心配され、2名が老人福祉センターの運動教室に申し込まれた。
		水彩画さくら		24	第1・3月曜日			23	226	21	183	代表を3カ月交代にし、教室や作品展の準備や片付けを分担。教室が定員オーバーになった時にサークルの活動紹介、PRに努めている。作品展では教室とサークルの違いなど説明し、参加を促した。
		習字スマレ会		24	第1・3火曜日			21	208	24	206	講師の丁寧な指導を受け、参加者同士作品の出来栄えを見せ合い和やかな雰囲気活動している。定員超えのため教室を継続できなかった方には、サークル活動の見学を勧めた。
		ひまわりの会		22	第1・3火曜日			22	279	19	208	絵手紙教室のOBにより長く続けられているため、徐々にレベルアップし、作品の出来栄えを皆で評価し合っている。 作品展での受付当番にも協力いただける等、積極的に活動されている。
		さざんか句会		11	第2火曜日			11	113	11	108	長年にわたって代表を務めている方を皆が頼られ、おしゃべりを交えながら和気あいあいと活動されている。一年間の活動の発表の場でもある作品展があることにより、目標をもって作品づくりができています。

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい		年度評価		平成28年度の実施状況		平成29年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H28年度	H29年度					
		水彩画水曜会		24	第1・3水曜日			24	181	24	158	講師の丁寧な指導を受け、ゆったりとした雰囲気の中、作品展への出展を目標に活動。積極的に作品展の準備や片付けのボランティアに協力いただいた。教室が定員オーバー時にサークルの活動紹介を紹介。作品展では教室とサークルの違いなど説明し参加を促した。
		習字サークルこぶし		24	第2水曜日 第4金曜日			20	145	24	163	長年にわたって代表を務めている方を皆が頼られ、講師の丁寧な指導で、作品展への出展に向け日々活動されている。教室の定員超えのため、継続できなかった方にはサークル活動の見学を勧めた。
		土曜表装		48	毎週土曜日			28	136	18	73	長年にわたって代表を務めている方を皆が頼られ、活動にまとまりがある。機関紙「いこい」に活動案内を載せるとともに、作品展でも活動の紹介をしたが、新規参加者がいない。会員は少数だが、今後も活動されることで、交流の場となっているため30年度も継続する。
		七宝焼		24	第1・3日曜日			19	72	12	37	参加者が高齢で会員数も徐々に減り、活動日が減少。機関紙「いこい」に活動案内を載せるとともに、作品展でも活動のPRを行うが、新規参加者がいない。会員は少数だが、今後も活動予定、交流の場となっているため30年度も継続する。
		小計		249				196	1,480	153	1,136	
		計		741		11	12	687	10,249	593	9,118	
自立生活維持支援事業	1	教室	定員	回数	実施日	ねらい		実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
		フラダンス教室	40	24	第2・4月曜日	各種運動を通じて、健康増進や体力作りを行うことによって、自立した生活が維持できることを目指す。		24	425	22	369	講師の都合により、開催予定を2回休講となった。新規2名を含む21名の応募有、体調不良等で2名途中退会。 新曲の時は初めての方にもわかりやすいように、資料を配布している。老人センターまつりではダンスを披露し、教室のPRに努めた。平成30年度には敬老会にも出演していただき、新規受講者の開拓に繋げたい。
		卓球クラブ	20	24	第2・4月曜日			22	338	22	338	新規13名を含む26名の応募有、20名の定員を大幅に上回る。年間を通じて問い合わせも多く、人気の教室であるが、場所や卓球台の台数に限りがあるため、継続の希望の方は2グループに分かれ実施できるよう工夫した。新規利用者が準備や片付けの方法がわかりやすいよう、ベテランの方とペアを組み、交流が持てるよう配慮した。応募人数が増えても、台の増設は不可能で、太平児童センターの休館日を利用して開催しており、活動日を増やすことも出来ないため、より多くの人に参加してもらうためには、新たな実施方法を模索する必要がある。
		俺がやる俺のための バランスボール教室	20	24	第1・3水曜日			24	245	23	194	新規2名を含む11名の参加で実施。講師の病氣療養のため急遽6月から別の講師と交代した。少人数ならではのじっくり個々の運動能力の把握をされ、体力維持の他に脳トレを取り入れ和やかな雰囲気で行えた。毎月発行している機関紙「いこい」での追加募集や、男性の教室には運動の必要性をアピールし、まずは見学を呼び掛けた。平成30年度からは老人センターの新規登録者に声を掛けて参加を促す。

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい		年度評価		平成28年度の 実施状況		平成29年度の 実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、 課題分析、自己評価
						H28 年度	H29 年度					
		バランスボールで 目指せマリリンモンロー教室	30	24	第2・4水曜日			24	485	24	526	新規10名を含む32名の応募有、定員を上回る。講師の病気療養のため、6月から別の講師と交代した。脳トレを取り入れ、笑いが絶えない楽しい雰囲気で行えた。30年度は講師の都合により、さらに別の講師に代わるため、受講者離れを防ぐとともに、特に初心者の方の転倒に気を付けながら見守ったり水分補給の声掛けなどをする必要がある。
		ヨガ教室	40	24	第2・4水曜日			24	753	24	801	新規18名を含む55名の応募有、40名の定員を上回る。(途中退会5名)ヨガにはいろいろなレベルがあるので、老人センターの教室に興味のある方にはまず、体験を勧めた。30年度の申込み時には、体験をしてそのまま参加できるよう変更する。
		男のヨガ教室	30	24	第2・4水曜日			24	218	24	219	新規5名を含む13名の参加。男性だけの教室のため、気兼ねなく体の柔軟性やバランス等じっくり自分と向き合って参加している。少人数の為、毎月発行している機関紙「いこい」での追加募集や、男性の教室には運動の必要性をPRし、まずは見学を呼び掛けた。30年度教室に申込みされた方には、4月前であっても参加できるようにし、できるだけ教室の雰囲気にも慣れていたようにした。
		軽運動教室	40	24	第1・3木曜日			24	600	24	538	新規4名を含む30名の応募有。準備、片付けを担当制にし、自主性を高めることで、地域でも新たな社会参加に繋がるよう工夫している。老人センターまつりや他の発表に向け、日々の練習の成果を発揮できている。広報誌「ふれあい」に発表の様子を掲載したり、運動教室に興味のある老人センターの新規登録者には体験を勧め、教室参加に繋げている。
		健康アップ体操教室	60	48	毎週金曜日			45	1,924	42	1,760	新規4名を含む56名の応募有。途中退会者があり、追加募集をした結果、2名が参加。開催予定日のうち、2回は悪天候の為休講としたため、利用者数が減少となった。週一回の1時間30分、ストレッチ、筋トレ、有酸素運動と、体をしっかり動かせる人気の教室である。参加人数が多いため、場所や、道具の数に限界があるが、「週1回」の開催が魅力の1つであることから、定員まではこの体制で継続する。
		体力向上教室 (座ってガッツリ体操教室)	20	24	第1・3水曜日			24	375	-	-	運営方法を変更
		小計		216	—	—		235	5,363	205	4,745	
		その他教室	定員	回数	実施日	ねらい		実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		男の料理教室	20	12	第2木曜日	仲間と楽しく料理作りを行うことによって、料理と栄養に関する知識の向上を目指す。		12	220	12	192	新規6名を含む21名の応募有。(体調不良により2名途中退会)新規参加者が戸惑うことがないよう、グループの構成に配慮したり、声掛けをするなどの工夫をした。調理方法を学ぶだけでなく、老人福祉センターの事業を紹介したり、指先や上半身のストレッチ体操を行い、健康や栄養に関する講話や資料を提供した。
		小計		12				12	220	12	192	
		計		228			11	247	5,583	217	4,937	

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい		年度評価		平成28年度の実施状況		平成29年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						H28年度	H29年度					
多世代交流事業	1	各種イベント	定員	回数	実施日	ねらい		実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
		雑巾作り		1	4月4日	複合施設の利点を活かし、子ども、高齢者、障がい者等、誰もが参加できるような事業を開催し、多世代交流や利用者間交流を図る。		1	12	1	19	28年度は3階老人センターで実施したことで子どもの参加が少なかったため、29年度は1階児童センターで行なったことで、子どもの参加人数が増えた。老人センター利用者にも声掛けをし、子どもとの交流をすることができた。
		七夕		1	7月6日			1	260	1	261	老人センターのロビーに笹を置き、来館者が短冊に願い事を書いたり、折り紙で彦星や織姫、天の川や星を飾った。冷たい「葛饅頭」「水ようかん」の販売をし、短冊には自分や家族の健康を願うものが多くあり、親子連れや、老人センターの利用者で季節行事を楽しんだ。
		でこぼこ夏祭り		3	8月1日 4日			3	180	2	85	老人センター利用者、ディサービス利用者、児童センターの子供達と2日間、盆踊りの練習を行った。ボランティア講師による、うながっぱ音頭や炭坑節などを皆で楽しく踊り、多治見音頭では難しい振付を真剣に指導を受けた。夏祭り当日は、気象警報により中止となる。今後はチラシ等に中止とする場合の表示について配慮する。
		母子・父子福祉センター交流会		2	8月3日 22日			2	33	2	36	小学生の夏休みを利用して、老人センター利用者と雑巾作りをしたり、新聞紙を使ったゲームや風船ラリーなど体を動かしたり声を掛け合ったりして親交を深めることができた。
		でこぼこ大運動会		1				1	42			老人センター利用者と、児童センター乳幼児親子及びディサービスセンター利用者などで運動会を企画していたが、ディサービスセンターの都合により中止となった。
		花餅作り		1	12月19日			1	38	1	22	ボランティア3名の協力により、準備、見本作りのほか、乳児の面倒をみたり、幼児と一緒に餅を丸めたりすることで、親子との交流ができた。乳児親子と高齢者で竹の枝や柳の枝を使い、餅を小さく丸めたり、等間隔に付けたりして、季節行事を通した世代間交流とともに、いろいろな形の花餅が出来上がった。
		新春お茶会		1	1月5日			1	208	1	230	お茶サークルの方の協力で抹茶を振る舞い、ボランティアの協力で琴の演奏を聴き、お正月らしいひと時を過ごしていただけた。近隣施設に案内したり、ディサービスセンター利用者や児童センターに来館した幼児親子にも参加を促した。 お正月の雰囲気を楽しんでもらうため、会場の入り口に鳥居を設置するとともに、絵馬に願い事を書いてもらい、絵馬掛けに掛けてもらえるように工夫した。30年度も来館者を楽しんでもらえるような内容を準備する。
		卓球大会		1	3月27日			1	20	1	16	小学生の春休みを利用して、児童センターの卓球クラブの子供達と老人センターの利用者で対戦し、点数のカウントやラケットの振り方など、教え合ったり、チームの応援をしたり、楽しく交流できた。低学年の子には特別ルールの設定や、児童センターの職員も参加し、経験年数やレベルへの配慮をした。
		計		11			12	12	11	9	669	

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい			年度評価		平成28年度の実施状況		平成29年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
							H28年度	H29年度					
地域交流事業	1	各種	定員	回数	実施日	ねらい			実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
		わいわい教室		48	毎週木曜日	誰もが参加できるような事業を開催し、利用者間交流を図る。季節行事を行い、地域の仲間づくりや閉じこもりを予防する。			41	647	38	469	誰もが気軽に参加できるよう、事前の申し込みを必要とせず、一般来館者を対象に実施し、職員による脳トレゲームや季節の折り紙などを参加者同士のおしゃべりも交えながら楽しんだ。老人センターの新規登録者には見学を勧め、参加を促した。これまで継続して参加されていた方達が心身の不調により、徐々に老人センターを利用されなくなったことで、利用者の減少につながった。健康の話や日常生活の話などクイズ形式を取り入れる等、楽しく参加できるよう工夫した。
		移動老人センター		4	第3水曜日				4	35	—	—	今年度、新たに介護予防に関する事業が始まったこと、移動老人センターとして協力してきた集まりが、ひまわりサロンとして自主運営することとなったこと等があり、今年度は実施せず。
		敬老週間		1	9月11日～16日				1	637	1	456	ボランティアによるよさこい踊りやマジックショー、楽器の演奏など日替わりの内容でデイサービス利用者や、老人センター利用者が一緒に参加され、楽しんでいただけた。「ファミリー一座」による大衆演劇や、手品なども出演者が次々と披露され、見ごたえあるものとなった。近隣の方は徒歩や自転車を利用して来場され、天候に左右されることから、雨の日の来場者は少なかった。毎月発行している機関紙「いこい」や広報誌「ふれあい」によるPR、会場入り口等にチラシで呼びかけたり、近隣の施設に案内をした。
		合同二吟発表会		1	10月17日				1	38	1	32	詩吟教室の日頃の練習の成果を発表し、また地域の愛好家の方が参加することにより、新規で教室に受講していただくきっかけづくりの場となった。
		ふれあい作品展		1	11月7日～13日				1	1,705	1	1,745	市内の福祉施設や福祉団体等に出展を呼びかけ、33団体(内3団体は新規)の申し込みがあった。会場の準備や片付けの作業のほか、展示期間中の受付当番は事前の説明会にて周知し、出展者にもご協力いただいた。開催期間中は駐車場が混雑するため、近隣の施設に協力いただいて確保した。各施設・団体の期間中の来館予定をあらかじめ日程調整し、駐車場やエレベーターの混雑を避けるよう努め、広報誌「ふれあい」へ掲載しPRに努めた。30年度も出展の募集に先駆けて開催期日を周知し、作品づくりの準備がしていただきやすい状況をつくる。
		楽友会コンサート		1	12月17日				1	117	1	116	ボランティアによるピアノと合唱で、クリスマスソングや、季節の歌を披露いただき、特に「ボレロ」は高く美しい歌声に拍手が起こるほど素敵なコンサートとなった。毎月発行する機関誌「いこい」に案内を掲載し、チラシで呼びかけるとともに、会場は大きなクリスマスツリーと装飾を飾って雰囲気を盛り上げた。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		平成28年度の 実施状況		平成29年度の 実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、 課題分析、自己評価
						H28 年度	H29 年度					
		老人センターまつり	1	2月19日～ 3月2日				1	544	1	587	展示部門では今回初めて企画した「多治見レトロ写真展」では多くの方が懐かしい写真に見入り、タイムスリップしたかのように昔話に花が咲いていた。ステージ部門ではフラダンスや軽運動、唱歌、民謡、詩吟など、それぞれの教室に通っている方々による日頃の練習の成果を披露したほか、ボランティアによるマジックショーを楽しみ、「レトロシアター」では、郷土資料室の協力を得て、昔の多治見の街並みや、風景をDVDを見ながら解説していただいた。対局部門では囲碁や将棋、健康麻雀大会で交流を深めた。新たに手作りの「健康おみくじ」を設置し、運試しと健康アドバイスに利用者は気軽に楽しんでもらうことができた。 近隣の福祉施設にも案内し、参加を呼びかけた。ショーを上演し、参加を呼び掛けても、自分の来館目的（ヘルストロンや囲碁・将棋、各教室等）以外には関心を持たない方も少なからずあり、こうした方の取り込み方を模索していく必要がある。
		多悠連合同作品展	1	2月28日～ 3月2日				1	693	1	746	多治見市悠光クラブ連合会の会員による手作り作品と、老人福祉センターで開催している教室（習字、ペン習字、水彩画、絵手紙、編物、写真、小物）で制作した作品のほか、教室OBの方たちにより自主的に活動しているサークルからも俳句や表装、水彩画、習字、絵手紙などを出展し、来場された方は、細かな装飾や力強い筆遣いなどに関心を持って見入っていた。 多悠連と打ち合わせを行い、準備の手順や役割について情報を共有し、会場の設置、撤去、開催期間の受付当番等、出品者にボランティアとして協力を得た。 毎月発行の機関紙「いこい」に案内を掲載するほか、チラシや事前からの会場入り口への看板設置、広報紙「ふれあい」への掲載等により、利用者に周知するよう努めた。30年度には多悠連からの要望を受け、曜日を変更して開催する。
		計	58		—	14	12	51	4,416	44	4,151	
個人利用	1	各種	定員	回数	実施日	ねらい		実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		ヘルストロン				誰もが自由に訪れ、憩い、楽しめる空間づくり、仲間づくりができる場を提供する。		—	15,498	—	15,101	昔からの常連の利用者が、心身の衰えにより利用されなくなったり、天候により利用者数が減る傾向にある。利用受付簿に記入しないで利用している方もあり、声掛けや掲示等での記入漏れを呼び掛けた。初めて来館される方には、施設の案内をするとともに、季節行事や、単発事業、途中参加できる教室の案内をし、気軽にいつでも利用いただけるよう適切な接遇に努めた。 平成28年後期から自動血圧計を設置したことで、利用者数の把握が確実にできるようになり、また、運動の前後には測定してもらうよう呼びかけた。11月中旬にヘルストロンの配置換えをし、1月には運動器具が増えたことを機に、レイアウトを変え、運動器具の適正管理に努め、利用の促進と事故防止に努めた。カラオケは多悠連の事情により10月から無料で開放されたことに伴い、利用者の把握ができず、利用者数は大きく減少したが、実際には無料になったことで、今まで利用されなかった方も無料化を機に新規に登録され、楽しんでいる方もある。30年度は受付簿への記入を呼び掛け、実際の利用者数に近づけられるよう改善を図る。
		運動器具						—	1,984	—	4,837	
		血圧測定						—	2,391	—	7,094	
		カラオケ						—	6,725	—	1,939	
		その他						—	10,050	—	9,579	
		計					10	10	36,648		38,550	

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい			年度評価		平成28年度の 実施状況	平成29年度の 実施状況	取組み、成果、利用者の満足度・評価、 課題分析、自己評価		
							H28 年度	H29 年度					
老人 クラブ の 支 援	1	各種	定員	回数	実施日	ねらい			実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		カラオケ教室			不定期	多治見市悠光クラブ (多悠連)の事業が円 滑に行われるよう連携 を図る。			23	641	25	575	多悠連の事業に参加・協力し連携を図った。事業の実施にあたり、必要に 応じて指導・支援を行った。 社協が地域福祉事業を推進していく中で、関係団体の1つとして連携を強 化している。 多悠連事務局の不在時におけるカラオケの取り扱いや雑用について、でき る範囲で協力した。
		多悠連理事会		1	偶数月第3金曜日				—	—	6	180	
		多悠連総会		1	5月11日				—	—	1	113	
		多悠連軽スポーツ大会		1	9月20日				—	—	1	211	
		多悠連演芸大会		1	10月7日				—	—	1	136	
		計		4			10	10	23	641	34	1,215	
各種 相 談 事 業	1	各種相談事業	定員	回数	実施日	ねらい			実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		各種相談事業			随時	高齢者の生活や健康 に関する相談に応じ、 適当な援助、関係機 関と連携を図っていく。			—	26	—	36	老人福祉センターで何が利用できるのか、外出するために教室や仲間作り など出来る場はないかとの問い合わせが圧倒的に多かった。気軽に参加で きる季節行事や、単発事業などの紹介して利用につながるよう努めた。今後 の生活や介護に関する相談は、地域包括包括支援センターや関係部署とも 連携を取りながら対応した。
		計					10	11		26		36	
生 業 及 び 就 労 支 援 事 業	1	相談事業	定員	回数	実施日	ねらい			実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	実施回数 (回)	参加延べ 人数(人)	
		高齢者就業相談		12	第2金曜日	高齢者の生業及び就 労等について指導を 行う。			12	4	12	3	毎月1回、相談日を設け、シルバー人材センターの協力を得て相談事業を 実施した。直接に職業の斡旋することはできないため、シルバー人材セン ターやハローワークの紹介に留まっている。広報に記載し、相談日の周知に 努める。
		計		12	—		11	10	12	4	12	3	

項目	区分	具体的内容		目標・ねらい		年度評価		平成28年度の実施状況		平成29年度の実施状況		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
						H28年度	H29年度						
独自事業	2	その他教室	定員	回数	実施日	ねらい			実施回数(回)	参加延べ人数(人)	実施回数(回)	参加延べ人数(人)	
		チャレンジ			随時	様々な企画を提供する中で、老人センターのPR及び教室の立ち上げに繋げていく。			11	204	12	200	主に専門の講師を招き、健康づくりや季節感を味わえる内容で実施。老人センターを利用したことがない方や継続して教室に通うことはできない方が、単発事業に参加することにより、利用のきっかけになっている。 <u>アンケートを実施し、高齢者の関心が高く、参加につながるような題材探しに努めている。</u> 5月 骨盤底筋体操 6月 園芸教室・骨格体操 10月 園芸教室・健康講座 11月 あなたもマジシャン・押絵作り・骨格体操 12月 園芸教室 1月 3B体操・健康講座 3月 骨格体操 30年度も要望の多い講座は実施する。
		終活応援			随時	これまでの人生を見つめ、また、これからの人生をどのように生きていきたいか、思い描くきっかけになるような講座を企画し、老人福祉センターのPRと新規利用者の拡大を図る。			—	—	4	101	<u>専門の講師を依頼して実施。いい話が聞けて良かったと好評。本事業を機に初めて来所された方に対して老人福祉センターのPRをすることが出来た。</u> 7月 お墓との付き合い方セミナー 9月 専門用語を使わない相続講座、健康講話 11月 生前整理 30年度は、特に関心のあった「生前整理」について、簡単に身近な話題として企画の準備を進める。
		小計		—					11	204	16	301	
		計		—				11	12	11	204	16	301

(留意事項) ※「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等でない自主事業は「2」を記入。

「年度評価欄」は、次の内容で記入。

・仕様書以上:15～12点、仕様書に忠実:11～9点、仕様書の一部附実施(軽微):8～7点、仕様書の一部附実施(中程度):6～3点、それ以下:2～0点